

障害児を育てるひとり親世帯の母親における 社会経済状況と健康状態

——国内外の研究動向と課題——

江 尻 桂 子

要旨

本稿では、障害児を育てるひとり親世帯の母親の生活状況や健康状態について、国内外の研究で得られた知見を整理した。そして、これらの母親は就労率が高い一方、低所得者の割合が高いとする国内の調査結果に注目し、今後より一層の経済的支援が必要であることを指摘した。また、障害児を育てるひとり親世帯の母親を対象とした国内の調査研究が極めて少ないことから、今後の支援策を検討するためには、さらなるデータの蓄積が必要であることに言及した。

キーワード 障害児 ひとり親家庭 母子世帯 社会経済状況 精神的健康

1. はじめに

現在、我が国には知的障害または身体障害のある18歳以下の子どもは30万人近くおり、これらの子どもの9割以上は、在宅で暮らしている（内閣府，2022）。また、障害児を育てる家庭の多くにおいて、主として育児を担うのは母親である（小沢，2007など）。以上をふまえると、障害のある子どもたちが健やかに育つためには、障害児本人に対する医療・福祉・教育の充実はもちろん、子どもたちのケアに日々携わる家族に対する十分な支援が必要である。とりわけ、主として育児を担う母親の心身の健康や生活の質をどう維持向上させるのかということは重要な問題である。

障害児の母親の生活状況に関する最近の調査からは、これらの母親らが一般児童世帯の母親に比べて就労率が低いことや（江尻・松澤，2013; Ejiri & Matsuzawa, 2019; 春木，2015）、世帯収入が低いこと（Ejiri & Matsuzawa, 2019; 工藤，2012）が報告されている。また、障害児を育てる母親のなかにも一定の割合でひとり親が存在しており、これらの家庭で生活上の困難（特に経済的困難）が生じている可能性が指摘されている（Ejiri & Matsuzawa, 2019）。

ただ、障害児をひとり親で育てる母親の問題に着目した研究は少なく、海外では数件の報告があるものの（Parish, 2012など）、我が国ではこの問題に取り組んだ実証研究は極めて少ない。したがって、障害児を育てるひとり親世帯の母親が、現在どのような生活状況にあるのかについての基礎的データが示されておらず、結果として、学術的な根拠のもとに今後の支援策について検討することができない状況にある。

以上の問題意識のもと、本稿では、障害児を育てるひとり親世帯の母親の生活状況や健康状態について、国内外の研究で得られた知見を整理し、そのうえで、今後の支援のあり方や研究課題について考える。なお、「ひとり親世帯」の捉え方としては、狭義では「配偶者の無い親とその子どものみ」から構成される世帯を指すが、本稿では、国内外の研究に準じ、これらの世帯に祖父母が同居する場合も含め、単親（配偶者無し）で障害児を育てる親を対象とする。また、本稿ではこれらの世帯の母親を「ひとり親世帯の母親」と呼び、配偶者のいる母親を「両親世帯の母親」と呼ぶこととする。

以下では、まずは、我が国におけるひとり親世帯一般の生活状況について概観する。それらをふまえた上で、「障害児を育てるひとり親の母親」に焦点を絞り、その生活状況や健康状態について、国内外の研究知見を整理する。

2. 我が国におけるひとり親世帯の生活状況

近年、我が国におけるひとり親世帯の数は増加傾向にある。具体的には、全世帯に占める狭義でのひとり親世帯（単親と18歳以下の子どものみからなる世帯。祖父母等が同居している世帯は除く）の割合は6.6%であり、この割合は、過去15年の間に約1.5倍となっている（厚生労働省, 2017）。

とくに母子世帯に着目して、その就労状況を見てみると、82%の親が就労しているものの、そのうち48%は非正規雇用の就労者である（厚生労働省, 2017）。一般に、非正規雇用者の賃金は、正規雇用者の賃金に比べて低いこととふまえると、低賃金かつ単独収入（シングル・インカム）で家計を担う母子世帯における経済的困難は明らかである。実際、母子世帯の54%は相対的貧困の状態にあるということだ（厚生労働省, 2017）。また、労働政策研究・研修機構（2017）が、2,159名の母子世帯および両親世帯の母親を対象に行った調査（両者を均等にサンプリング）によれば、母子世帯の母親は、両親世帯の母親に比べて精神的健康度が低く、抑うつ症状を示す者の割合も、前者は後者の約2倍であるということだ。

以上は、子育て世帯一般を対象とした調査の結果であるが、これらの結果をふまえたうえで、以下では障害児を育てる母親に焦点を絞り、その社会経済状況や健康状態に関する国内外の研究知見を概観する。

3. 障害児を育てるひとり親世帯の母親に関する海外の研究

障害児を育てるひとり親世帯の母親に関しては、すでに欧米諸国を中心にいくつかの調査研究が行われている。そして、ひとり親世帯の母親が両親世帯の母親に比べて就労率が低いことや、離職・転職率が高いことが報告されている（Baydar, Joesch, Kiechhefer, Kim, & Greek, 2007; DeRigne & Porterfield, 2010; Gordon, Rosenman, & Cuskelly, 2007; Gould, 2004; Hauge, Kornstad, Nes, Kristensen, Irgens, Eskedal, Landolt, & Vollrath, 2013; Loprest & Davidoff, 2004; Thyen, Kuhlthau, & Perrin, 1999）。例えば、特別なニーズをもつ子どもの母親41,255名を対象としたノルウェーの調査によれば、配偶者がいる母親と、配偶者がいない母親とでは、子どもが3歳時点での非就労率が異なり、前者は16%だが、後者では26%にのぼるという（Hauge et al., 2013）。すなわち、子ども

に障害があることによる、母親の就労への負の影響は、ひとり親の母親のほうが強いという結果である。

一方、上記とは逆に、ひとり親世帯の母親は、その経済的な必要性ゆえに、両親世帯の母親に比べて就労率が高くなるとの報告もある (Porterfield, 2002; Scott, 2010)。米国人の母親13,484名を対象にした研究では、障害児を育てる母親のなかでも、配偶者の無い母親は、配偶者のある母親に比べて、子どもが就学年齢に達したときに再就職したり就労時間を増やしたりする傾向が高いということだ (Porterfield, 2002)。

次に、障害児を育てるひとり親世帯の母親の経済状況としては、米国で発達障害児の母親を対象に実施された調査研究 (Parish, Rose, Swaine, Dababnah, & Mayra, 2012) が注目に値する。この研究では、1) 発達障害児を育てるひとり親世帯の母親242名、2) 発達障害児を育てる両親世帯の母親345名、3) 発達障害のない子どもを育てるひとり親世帯の母親6,547名を比較し、1のグループの母親が、他の2つのグループの母親よりも、経済状況が厳しいことを報告している。すなわち、同じようにひとり親で子どもを育てる母親の中でも、発達障害児を育てる母親の方が、発達障害のない子どもを育てる母親に比べて、より経済的に困難であることを示す結果である。

最後に、ひとり親で障害児を育てる母親の精神的健康について見ていきたい。米国で自閉症児を育てるひとり親世帯の母親122名を対象とした研究からは、これらの母親の精神的健康度が相対的に低いこと、また、母親らの77%が抑うつと診断されるリスクがあることを報告している (Dyches, Christensen, Harper, Mandleco, & Roper, 2016)。一方、オーストラリアの研究では、自閉症児を育てるひとり親世帯の母親43名と両親世帯の母親63名を比較した結果、両者のストレスのレベルに有意差は見られないと報告している (McAuliffe, Cordier, Vaz, Thomas, & Falkmer, 2017)。

以上のように、障害児を育てるひとり親の母親については、海外ではいくつか調査報告があるものの、両親世帯の母親に比べたときの就労状況や、精神的健康度に関する結果は必ずしも一致していない。ここで前述の研究結果を整理すると、障害児を育てるひとり親世帯の母親と両親世帯の母親を比べた際に、前者における就労率の低さや精神的健康度の低さを示す報告がある一方、就労率はむしろ高くなるという報告や、精神的健康において両者の間に相違は見られないとの報告もあり、結果は一致していない。おそらくこうした相違が見られるのは、データが収集された国や地域によって、子育て世帯を取り囲む社会文化的背景——家族のあり方、性別役割分業、男女の社会参画、子育て世帯への社会的支援の充実度等——が大きく異なるためであろうと考えられる。

4. 障害児を育てるひとり親世帯の母親に関する国内の研究

さて、それでは我が国で障害児を育てるひとり親世帯の母親は、どのような社会経済状況や健康状態にあるのだろうか。前節で紹介した知見は、いずれも欧米で行われた調査研究であるため、そこで得られた知見をそのまま我が国にあてはめることはできない。

上記の問題を取り上げた最近の研究としては、Ejiri & Matsuzawa (2021) による調査研究が挙げられる。この研究では、知的障害児 (6 ~ 18歳) の母親210名から得た質問紙調査の回答をもとに、ひとり親世帯の母親 (27名) と両親世帯の母親 (183名) のあいだ

で、その就労や収入、健康状態に差があるのかどうかを比較している。そして、ひとり親世帯の母親は、両親世帯の母親に比べて、就労率が有意に高いこと (74% vs. 46%)、一方で、年収200万円以下の低所得者の割合は前者が後者に比べて有意に高いことを示している (67% vs. 8%)。また、育児支援に関しては、ひとり親世帯の母親のほうが両親世帯の母親に比べて、祖父母からの支援を受けている割合が高いということだ (67% vs. 50%)。なお、精神的健康度 (SF8 健康関連QOL尺度による測定) に関しては、両グループの間に差はないものの、注目すべき結果として、障害児の母親は、ひとり親世帯・両親世帯に関わらず、同年代の日本人女性の平均値に比べて有意に精神的健康度が低いということだ。

以上の結果をふまえ、以下では、これらのデータと国内外のデータを比較しながら、障害児を育てるひとり親世帯の母親の生活状況についてどのようなことが言えるのか、また、今後いかなる支援が必要であるのかを考察する。

5. 障害児を育てるひとり親の母親の社会経済状況：一般児童世帯との比較

前節で紹介した調査の結果 (Ejiri & Matsuzawa, 2021) を再度、整理すると、障害児を育てるひとり親世帯の母親は、両親世帯の母親に比べて、就労率が3割近く高い。同様の傾向は、我が国における一般児童世帯にも見られ、ひとり親世帯の母親の就労率 (81%) は、両親世帯の母親の就労率 (63%) に比べ、2割近く高い (厚生労働省, 2013)。

ここで上記の結果を、海外の報告と比較してみると、米国での2つの研究報告 (Porterfield, 2002, Scott, 2010) には一致するが、ノルウエーの報告 (Hauge et al., 2013) をはじめ、複数の国の研究結果 (ひとり親世帯の母親の方が両親世帯の母親よりも就労率が低いという結果) (DeRigne & Porterfield, 2010など) とは一致していない。ただし、ここで留意すべきは、ノルウエーを含む北欧諸国に関して言えば、先進諸国 (OECD加盟諸国) のなかでも、女性の就労率が非常に高く、これらの国では、子どもに障害がある、ひとり親である、などの困難があったとしても、母親の就労率は日本の一般の母親の就労率と大きく変わらないということである (例えば、上述のノルウエーの研究では、最も重い障害を持つ子どもの母親でも、その就労率は65%にのぼる)。以上をふまえると、他国の結果と自国の結果を単純に比較・検討することはできず、各々の国の文化的背景をも含めて慎重に見ていく必要があるだろう。

ここで、Ejiri & Matsuzawa (2021) の調査結果に戻ると、子どもに障害がある場合においても、一般の児童世帯と同様、ひとり親世帯の母親の方が、両親世帯の母親よりも就労率が高いことが (上記の調査では、サンプル数が少ないため断定できないものの) 推察される。ただし、このように多くのひとり親の母親が障害児を育てながら就労している一方、7割近くが低所得者層に属しており、その割合は、両親世帯における低所得者層の割合 (8%) に比べてはるかに高い。こうした経済格差は、一般児童世帯における両者の格差と一致しており、一般児童世帯を対象とした調査においても、ひとり親 (母子) 世帯の約半数が相対的貧困にある一方、両親世帯におけるその割合は1割に満たないことが報告されている (労働政策研究・研修機構, 2017)。

以上をまとめると、限られた調査データに基づく推察ではあるが、我が国における障害児を育てるひとり親世帯の母親の社会経済状況としては、一般児童世帯で見られる状況と

同様に、相対的に就労率は高いものの、経済的にはかなり厳しい状態にあり、いわゆるワーキングプアの状態にある者が多いことが推察される。

6. 障害児を育てるひとり親世帯の母親への今後の支援

我が国では、障害児を育てる親は、特別児童扶養手当を支給されるが、その額は、子どもの障害の程度や、世帯収入に応じて決められる。また、ひとり親等で児童を養育する親等には、児童扶養手当が支給されるが、これも世帯収入に応じたものであり、いずれも一定の基準を満たす者のみが受給できる仕組みとなっている。以上のように、我が国において、障害児を育てる親や、ひとり親に対する公的支援は存在しているものの、前節で示した調査結果に基づけば、これらの母親における経済的困窮は看過できない。加えて、障害児の子育てには、障害のない子どもの育児に比べて、種々のケア（例 医療的ケア、専門家による指導（言語療法・作業療法など）、発達支援など）を要する場合が多く、医療福祉制度に基づく公費負担があるとはいえ、無料で受けられるものばかりではない。このことを考えれば、今後、障害児を育てるひとり親世帯に対して、より一層の経済的支援が必要であると言えるだろう。

なお、心身の健康については、ひとり親・両親世帯に関わらず、障害児の母親の精神的健康度は同年代の一般女性に比べて低いという結果が示されている（Ejiri & Matsuzawa, 2021）。こうした傾向（障害児の母親における精神的健康度の相対的な低さ）は、政府データ（2010年度国民生活基礎調査）の二次分析を行ったYamaokaらの分析結果にも一致する（Yamaoka, Tamiya, Moriyama, Garrido, Sumazaki, & Noguchi, 2015）。両研究ともに、障害児を育てるひとり親世帯の母親が、両親世帯の母親よりも、精神的健康度が低いという結果は示していないものの、一般児童世帯における、ひとり親世帯の母親の精神的健康度の相対的な低さをふまえれば、今後、上記の問題については、さらなるデータのもとに追究していく必要があるだろう。

7. 本稿の限界と今後の課題

本稿では、障害児を育てるひとり親世帯の母親の生活状況や健康状態について国内外の研究で得られた知見を整理し、それらをもとに今後の支援について考察した。

これまで述べてきたように、上記の問題については、海外ではいくつか研究報告があるものの、国内では極めて研究例が少ない。結果として、本稿ではEjiri & Matsuzawa (2021) による調査報告を中心に考察を進めることとなった。したがって、本稿でまとめた、障害児を育てるひとり親世帯の母親の生活状況や今後の支援策は、あくまで限られたデータに基づくものであり、このことは本稿における重要な限界点である。今後、さらなるデータの蓄積と、それに基づく考察が必要である。

また、もう一つの限界点として、本稿では、母親の婚姻状態（配偶者の有無）が、障害児を育てる母親の社会経済状況や精神的健康に影響を及ぼすであろうとの前提のもと、国内外の研究知見を整理してきた。しかしながら、障害児を育てる母親が、育児と仕事を両立できるのかどうかや、心身の健康を維持向上できるのかということには、婚姻形態だけでなく、その他の社会文化的な要因——例えば、障害児を育てる世帯へのフォーマルなサ

ポート（例 経済的支援、医療・福祉・教育の充実）や、インフォーマルなサポート（例 祖父母の支援や地域の有無等）——が密接に関与しているはずである。したがって、婚姻形態のもたらす影響についても、それらとの関係のなかで丁寧に見ていく必要があるだろう。

たとえば、ひとり親で子育てをしている母親への親族の支援に関していえば、日本と欧米諸国とは状況が異なり、国内の調査結果（Ejiri & Matsuzawa, 2021）にも見るように、日本では祖父母が母親（ひとり親となった娘）の育児を日常的に支援するケースが少なくない。したがって、障害児を育てるひとり親世帯は、確かに経済的には厳しいものの、それでは、精神的な健康状態も同様に両親世帯の母親に比べて悪いかというと、現段階では必ずしもそうした結果は示されていない。このように考えると、配偶者の有無が、母親の生活上のどのような側面にどのような影響を与えるのか、それぞれの影響はプラスであるかマイナスであるかについては、さらに慎重な検討が必要と言える。

以上をふまえると、今後は、より多くの母親を対象とした調査の実施が必要であり、また、分析の際には多変量解析などを用いて、婚姻状態も含めた各要因間の関係を丁寧に見ていく必要があるだろう。

引用文献

- Baydar, N., Joesch, J., Kiechhefer, G., Kim, H., & Greek, A. (2007) Employment behaviors of mothers who have a child with asthma. *Journal of Family and Economic Issues*, 28, 337–355.
- DeRigne, L. A., & Porterfield, S. (2010) Employment change and the role of the medical home for married and single-mother families with children with special healthcare needs. *Social Science & Medicine*, <https://doi.org/10.1016/j.socscimed.2009.10.054>
- Dyches, T. T., Christensen, R., Harper, J. M., Mandelco, B., & Roper, S. O. (2016) Respite care for single mothers of children with autism spectrum disorders. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, <https://doi.org/10.1007/s10803-015-2618-z>
- 江尻桂子・松澤明美（2013）障害児を育てる家族における母親の就労の制約と経済的困難—障害児の母親を対象とした質問紙調査より—。茨城キリスト教大学紀要, 47, 1-8.
- Ejiri, K., & Matsuzawa, A. (2019) Factors associated with employment of mothers caring for children with intellectual disabilities. *International Journal of Developmental Disabilities*, 65, 239-247. <https://doi.org/10.1080/20473869.2017.1407862>
- Ejiri, K. & Matsuzawa, A. (2021) Employment, finance, and health status of single mothers raising children with intellectual disabilities in Japan. *Journal of Ibaraki Christian University II. Social and Natural Sciences*, 54, 119-129.
- Gordon, M., Rosenman, L., & Cuskelly, M. (2007) Constrained labour: Maternal employment when children have disabilities. *Journal of Applied Research in Intellectual Disabilities*, 20, 236–246.
- Gould, E. (2004) Decomposing the effects of children's health on mother's labor supply: Is it time or money? *Health and Income*, 13(6), 525–541.
- 春木裕美（2015）障害児の母親の就労に関連する要因。発達障害研究, 37, 174-185.
- Hauge, L. J., Kornstad, T., Nes, R. B., Kristensen, P., Irgens, L. M., Eskedal, L. T., Landolt, M. A., & Vollrath, M. E. (2013) The impact of a child's special healthcare needs on maternal work participation during early motherhood. *Paediatric and Perinatal Epidemiology*, 27, 353–360.
- 厚生労働省（2013）ひとり親世帯の支援について。
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/shien_01.pdf.（アクセス日：2022年9月30日）
- 厚生労働省（2017）平成28年度全国ひとり親世帯等調査結果報告

- <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188147.html>. (アクセス日: 2022年9月30日)
- 工藤典代 (2012) 家庭環境—特に世帯所得金額について—. 感覚器障害戦略研究: 聴覚障害の療育等により言語能力の発達を確保する手法の研究—聴覚障害児の日本語言語発達のために— ALADJIN のすすめ—. テクノエイド協会, 78-79.
- Loprest, P., & Davidoff, A. (2004) How children with special healthcare needs affect the decisions of low-income parents. *Maternal and Child Health Journal*, 8, 171–182.
- McAuliffe, T., Cordier, R., Vaz, S., Thomas, Y., & Falkmer, T. (2017) Quality of life, coping styles, stress levels, and time use in mothers of children with autism spectrum disorders: Comparing single versus coupled households. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, <https://doi.org/10.1007/s10803-017-3240-z>
- 内閣府 (2022) 令和3年版障害者白書 (障害者の状況)
- 小沢浩・加藤郁子・尾崎裕彦・石塚丈広・有本潔・木実谷哲 (2007) 重症心身障害児 (者) の家族介護の現状と課題. 脳と発達, 39, 279-282.
- Parish, S. L., Rose, R. A., Swaine, J. G., Dababnah, S., & Mayra, E. T. (2012) Financial well-being of single, working-age mothers of children with developmental disabilities. *American Journal on Intellectual and Developmental Disabilities*, <https://doi.org/10.1352/1944-7558-117.5.400>
- Porterfield, S. L. (2002) Work choices of mothers in families with children with disabilities. *Journal of Marriage and Family*, 64, 972–981.
- 労働政策研究・研修機構 (2017) 子どものいる世帯の生活状況および保護者の就業に関する調査2016 (第4回子育て世帯全国調査)
- Scott, E. K. (2010) “I feel as if I am the one who is disabled”: The emotional impact of changed employment trajectories of mothers caring for children with disabilities. *Gender & Society*, <https://doi.org/10.1177/0891243210382531>
- Thyen, U., Kuhlthau, K., & Perrin, J. M. (1999) Employment, child care, and mental health of mothers caring for children assisted by technology. *Pediatrics*, 103, 1235–1242.
- Yamaoka, Y., Tamiya, N., Moriyama, Y., Sandoval Garrido, F. A., Sumazaki, R., & Noguchi, H. (2015) Mental health of parents as caregivers of children with disabilities: Based on Japanese nationwide survey. *PLoS One*, <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0145200>

Employment, income, and health status among single mothers caring for children with disabilities: A literature review.

Keiko EJIRI
Ibaraki Christian University

Abstract

Previous studies have reported that mothers of children with disabilities have many difficulties such as lower household income, lower workforce participation, and lower mental health status than mothers of typically developing children. However, little is known about these issues among mothers caring for children with disabilities in single-parent status. The present study reviews recent research on socioeconomic status and health status of mothers raising children with disabilities in single parent status. A questionnaire survey conducted in Japan showed that single mothers caring for children with disabilities were more likely to be employed but had lower incomes than married mothers. In reviewing the studies, we suggested further financial support should be provided for single mothers caring for children with disabilities.

Key Words: single mothers, children with disabilities, parents, socio-economic status, financial support, mental health